

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成26年3月13日 (2014.3.13)

【公開番号】特開2013-80010(P2013-80010A)

【公開日】平成25年5月2日 (2013.5.2)

【年通号数】公開・登録公報2013-021

【出願番号】特願2011-218597(P2011-218597)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/20 (2006.01)

G 0 2 B 5/22 (2006.01)

H 0 5 B 33/12 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

G 0 3 F 7/004 (2006.01)

G 0 3 F 7/038 (2006.01)

C 0 9 B 23/00 (2006.01)

C 0 9 B 47/04 (2006.01)

C 0 9 B 67/20 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

C 0 8 F 220/12 (2006.01)

C 0 9 B 57/10 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/20 1 0 1

G 0 2 B 5/22

H 0 5 B 33/12 E

H 0 5 B 33/14 A

G 0 3 F 7/004 5 0 5

G 0 3 F 7/038 5 0 1

C 0 9 B 23/00 L

C 0 9 B 47/04

C 0 9 B 67/20 G

G 0 2 F 1/1335 5 0 5

C 0 8 F 220/12

C 0 9 B 57/10

【手続補正書】

【提出日】平成26年1月27日 (2014.1.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 3】

一般式 (I-3) 中、 R^8 及び R^9 は、各々独立に、アルキル基（好ましくは炭素数 1 ～ 36、より好ましくは 1 ～ 12 の直鎖、分岐鎖、又は環状のアルキル基であり、例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、ブチル基、イソブチル基、テオプチル基、ヘキシル基、2-エチルヘキシル基、ドデシル基、シクロプロピル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、1-アダマンチル基が挙げられる。）、アルケニル基（好ましくは炭素数 2 ～ 24、より好ましくは 2 ～ 12 のアルケニル基であり、例えば、ビニル基、アリル基、3-ブテン-1-イル基が挙げられる。）、アリール基（好ましくは炭

素数 6～36、より好ましくは 6～18 のアリール基であり、例えば、フェニル基、ナフチル基が挙げられる。)、ヘテロ環基(好ましくは炭素数 1～24、より好ましくは 1～12 のヘテロ環基であり、例えば、2-チエニル基、4-ピリジル基、2-フリル基、2-ピリミジニル基、1-ピリジル基、2-ベンゾチアゾリル基、1-イミダゾリル基、1-ピラゾリル基、ベンゾトリアゾール-1-イル基が挙げられる。)、アルコキシ基(好ましくは炭素数 1～36、より好ましくは 1～18 のアルコキシ基であり、例えば、メトキシ基、エトキシ基、プロピルオキシ基、ブトキシ基、ヘキシルオキシ基、2-エチルヘキシルオキシ基、ドデシルオキシ基、シクロヘキシルオキシ基が挙げられる。)、アリールオキシ基(好ましくは炭素数 6～24、より好ましくは 6～18 のアリールオキシ基であり、例えば、フェノキシ基、ナフチルオキシ基が挙げられる。)、アルキルアミノ基(好ましくは炭素数 1～36、より好ましくは 1～18 のアルキルアミノ基であり、例えば、メチルアミノ基、エチルアミノ基、プロピルアミノ基、ブチルアミノ基、ヘキシルアミノ基、2-エチルヘキシルアミノ基、イソプロピルアミノ基、t-ブチルアミノ基、t-オクチルアミノ基、シクロヘキシルアミノ基、N, N-ジエチルアミノ基、N, N-ジプロピルアミノ基、N, N-ジブチルアミノ基、N-メチル-N-エチルアミノ基が挙げられる。)、アリールアミノ基(好ましくは炭素数 6～36、より好ましくは 6～18 のアリールアミノ基であり、例えば、フェニルアミノ基、ナフチルアミノ基、N, N-ジフェニルアミノ基、N-エチル-N-フェニルアミノ基が挙げられる。)、又はヘテロ環アミノ基(好ましくは炭素数 1～24、より好ましくは 1～12 のヘテロ環アミノ基であり、例えば、2-アミノピロール基、3-アミノピラゾール基、2-アミノピリジン基、3-アミノピリジン基が挙げられる。)を表す。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

一般式 (I-3) 中、 R^8 及び R^9 表されるアルキル基、アルケニル基、アリール基、ヘテロ環基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アルキルアミノ基、アリールアミノ基、又はヘテロ環アミノ基が、更に置換可能な基である場合には、置換されていてもよく、2 個以上の置換基で置換されている場合には、それらの置換基は同一であっても異なっているもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0089

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0089】

前記一般式 (II) において、M は、金属又は金属化合物を表す。

前記金属又は金属化合物としては、錯体を形成可能な金属又は金属化合物であればいずれであってもよく、2 価の金属原子、2 価の金属酸化物、2 価の金属水酸化物、又は 2 価の金属塩化物が含まれる。

一般式 (II) 中の M は、例えば、Zn、Mg、Si、Sn、Rh、Pt、Pd、Mo、Mn、Pb、Cu、Ni、Co、及び Fe 等、並びに、AlCl、InCl、FeCl、TiCl₂、SnCl₂、SiCl₂、GeCl₂ などの金属塩化物、TiO、VO 等の金属酸化物、Si(OH)₂ 等の金属水酸化物が含まれるる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0091

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0124

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0124】

(例示化合物 6 の合成)

メタクリル酸アリル (79 重量部)、メタクリル酸 (32 重量部)、1-メトキシ-2-プロパノール (140 重量部)、V-65 (商品名: 和光純薬社製、重合開始剤 (2,2'-アゾビス (2,4-ジメチル) パレロニトリル): 0.6 重量部) の混合溶液を、窒素気流下、70℃で8時間重合させた。反応溶液を室温まで冷却後、水 (200 重量部) を加え、再沈処理をおこなった。凝集したポリマーを濾過、水洗後、乾燥することにより、例示化合物 6 を合成した。

得られたポリマーの重量平均分子量 (GPC 法、ポリスチレン換算) は、33,000 であった。

本発明の着色硬化性組成物における (B) 特定バインダーの含有量は、前記 (A) 染料 1 質量部に対して、0.1 質量部～20 質量部の範囲であることが好ましい。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0188

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0188】

以下に、実施例 1 の着色感光性組成物の調製で用いた染料 (A-1) は、ピロメテン金属錯体染料の例示化合物 (11) である。染料 (B-1) は、下記構造のアントラキノン化合物 (アントラセン-9,10-ジオン骨格を有する化合物) である。